

# 第15回 京都府がん医療戦略推進会議の開催概要

## 1 日時

令和7年7月29日（火）午後4時00分から午後5時15分まで

## 2 場所

WEBによる会議

## 3 出席団体

### <がん診療連携拠点病院>

京都府立医科大学附属病院  
京都大学医学部附属病院  
京都第二赤十字病院  
京都市立病院  
京都第一赤十字病院  
京都医療センター  
京都桂病院  
宇治徳洲会病院  
京都岡本記念病院  
市立福知山市民病院  
京都府立医科大学附属北部医療センター

### <地域がん診療病院>

京都山城総合医療センター  
京都中部総合医療センター

### <京都府がん診療連携病院>

舞鶴医療センター

### <関係団体>

京都府医師会  
京都府病院協会  
京都府私立病院協会

### <オブザーバー：京都府がん診療推進病院>

三菱京都病院  
京都済生会病院  
洛和会音羽病院  
武田総合病院  
京都鞍馬口医療センター  
京都民医連中央病院  
綾部市立病院

### <京都府>

## 4 議題

- (1) 各部会における現状等報告
- (2) 希少がん・難治がんの患者の診断・治療に関する対応状況
- (3) がん医療に関する医療機関としてのB C P策定状況

## 5 議事概要・主な意見

### (1) 各部会における現状等報告

#### 【がん薬物療法部会】

- ・令和6年度は部会を1回開催（12月・WEB開催）。テーマに沿った事前アンケートに基づき、令和6年度診療報酬改定で新設された「がん薬物療法体制充実加算」に関する状況共有と、「がんゲノム医療」について意見交換を行った。
- ・「がん薬物療法体制充実加算」については、各施設での算定状況や課題について状況を共有。既に多くの施設で算定を行っている状況であったが、マンパワー不足等の理由により、これから算定の取り組みを始める施設もあることが分かった。また、診察前面談での薬剤師のプロトコルに基づく薬物治療管理を活用した検査または処方の代行オーダーについても議論が及び、施設ごとに様々な対応をとっていることが共有され、有意義な情報交換となった。
- ・「がんゲノム医療」については、がんゲノム医療連携病院に指定されている施設でも、苦労しながら実施している施設が多い状況であることが報告され、コンパニオン診断が効果的に使用できないという日本の保険制度上の課題について意見交換。また、がん遺伝子パネル検査（がんゲノムプロファイリング検査）を行っても、早期臨床試験を受けるために国立がん研究センター等の遠方の施設へ通院することになり、地方にお住まいの患者さんにとって負担となる点に鑑み、DCTを活用した治験業務の一部（検査・診察など）を実施する役割を担う治験実施医療機関のパートナー医療機関の要件等のハードルを下げる必要性等について意見交換。

#### 【緩和ケア部会】

- ・令和6年度は部会を1回開催（10月・WEB開催）。加えて、主としてACPに関する課題解決に向けた情報交換会を2回、ELNEC-J研修を2回開催。
- ・医師や看護師等に対する研修の充実に関する取組に加え、診療報酬改定に伴い、人生の最終段階における適切な意思決定支援の推進が求められている点について、対応状況を共有。
- ・難治性がん疼痛に対しては、一般的な薬物療法に組み合わせた神経ブロックによる専門的な疼痛治療が重要な手段のひとつとなるが、対応可能な施設が限られているため、京都府内において、この神経ブロックによる疼痛治療を均てん化するための相談事業として、ホームページを開設。
- ・緩和ケアに係る施設・地域に至る切れ目ない連携体制の構築のための緩和ケア病棟との情報共有として「京都府ホスピス・緩和ケア外来 初診共通問診表」を運用。
- ・今後は、京都府内の病院に対し、緩和ケアチーム結成に向けた取組支援を行うことに加え、難治性がん疼痛に対する神経ブロックによる疼痛治療についてメールにより個別の患者さんに関する相談対応を行う事業や、専門的な緩和ケア提供の更なる質の向上につながる人材育成に関する取組についても進めるとともに、人口動態と年次推移、看取りの場所から、各施設の動向も確認した上で、拠点病院の役割を意識した緩和ケアの提供体制に関する検討を行う予定。

#### 【研修部会】

- ・令和6年度は部会を1回開催（令和7年2月・WEB開催）。
- ・各がん診療連携拠点病院等のがん研修情報の収集と共有化、がん研修動画提供によるがん医療の質の向上及び均てん化、京都府ホームページへの掲載による府民への啓蒙活動を活動目標に部会を運営。
- ・各がん診療連携拠点病院等の「がん研修計画」を取りまとめ、京都府ホームページへ掲載するとともに、京都大学医学部附属病院で実施したがん研修の動画を研修部会のホームページで公開した。
- ・がん医療の質の向上及び均てん化のため、各施設に研修動画の提供をお願いしているが、施設のルールや著作権の問題等により各施設からの動画提供が困難な状況もあるため、動画提供にこだわらない形での情報共有が今後の課題である。

- ・令和6年度から情報共有強化の取組として、研修部会にて取りまとめた「がん研修計画」のうち、“院外からも参加可能な研修”について、2か月前を目安に研修部会専用メーリングリストで周知し、参加機会の増加につながる取組を行っている。一定の効果があることから今後も継続して行う予定。

### **【相談支援部会】**

- ・令和6年度は部会を3回開催（7月と12月・WEB開催、令和7年3月・対面開催）。対面開催の際には、患者会の代表の方にもご参加いただいた。
- ・京都府におけるがん情報提供及び相談支援体制の強化と連携促進、がん相談の専門性向上及び相談支援ツールの充実を活動目標として部会を運営。
- ・アンケートにより、がん相談支援センター等（がん相談支援機能を担う部門）において行われている情報提供及びがん相談支援の取り組みに関する現状を確認したところ、相談支援窓口の設置状況やがん情報の更新頻度、患者向け資料の配布状況などについて、施設ごとに取り組みの差が認められた。このため、今後は当該部門における取組状況の共有を促進し、がん相談支援センター等における相談支援の質の向上及び情報発信の充実に取り組む。
- ・拠点病院等における相談支援の質の向上のため、相談員の人材育成に関する研修をこれまで継続的に実施してきた。令和6年度は、現場の相談員が不安や課題を共有する場を提供し、自らの相談支援に自信を持つことを到達目標とした複数の研修を開催。研修テーマは「情報から始まるがん相談支援」「アピアランスケア研修会（令和6年度厚労省モデル事業）」「がん相談×臨床倫理×対話」とし、現場の相談員が研修を企画・運営を担った。これにより、多職種連携の重要性や、困難事例等の際ににおける他機関と連携した対応の必要性を再認識する場となった。
- ・なお、前回会議（第14回京都府がん医療戦略推進会議）において、災害時等におけるがん医療提供体制の確保を検討するため、各病院における医療機関としてのBCPの策定状況について共有されたことを受け、災害時等におけるがん相談支援体制を確保するための連携体制の構築などについて、相談支援部会として検討していくことについて協議し、令和7年度に「災害時等のがん相談支援体制検討ワーキンググループ」を設置するに至った旨、報告。

### **【院内がん登録部会】**

- ・令和6年度は部会を3回開催（4月と7月と令和7年2月・WEB開催）。
- ・京都府内におけるがん登録の推進、人材育成のための持続的な教育、がん登録データの二次利用の推進を活動目標に部会を運営。
- ・部会では、研修会実施について協議するとともに、「都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会」での協議状況を共有している。
- ・がん登録実務ワーキンググループ会議を3回開催。院内がん登録部会研修を2回開催。（いずれもWEB開催）
- ・また、メーリングリストを活用した情報共有を行い、登録実務に関する様々な問題解決の場として運用できている。
- ・今後は、これまでどおり、「がん関連の臨床講義」を核とした定期的な研修会を開催していくとともに、がん登録データの分析を行っていく予定。

### **【地域連携部会】**

- ・令和6年度は部会を1回開催（令和7年1月・WEB開催）。
- ・がん患者さんが、がんの病状や意向に応じて適切ながん医療が受けられるよう、入院治療から在宅医療に至るまでの切れ目ないフォローアップ体制を強化するツールとして府内統一のがんに係る地域連携手帳を運用。地域の医療機関とがん診療連携拠点病院等の連携強化（利用促進・利便性向上）が活動目標。
- ・地域連携手帳の活用状況を把握した上で、活用実績の多い医療機関の取組を共有し、よりよい運用について協議。消化管がんの地域連携手帳はよく使われているなど、がん種によって活用状況に差があることから、がん種ごとに担当の病院を決め、活用しやすい仕様に改善する等の検討に取り組んでいくこととなった。
- ・令和6年度は京都府立医科大学附属病院が主体となり、地域医療機関リストの更新を行った。次回更新は令和8年度を予定しており、京都大学医学部附属病院が担当する。
- ・広くがんに係る地域連携について情報交換を行い、高山部会長から、近畿圏における希少がんに関するネットワーク構築への協力について、大阪国際がんセンターから依頼があったことについても共有された。

## (2) 希少がん・難治がんの患者の診断・治療に関する対応状況

- ・令和4年8月1日に改正された「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」に、がん医療戦略推進会議において“地域の実情に応じて、都道府県内の各拠点病院等及びがん診療を担う医療機関における役割分担を整理・明確化し、その内容を関係者間で共有するとともに広く周知すること”と示されている項目のひとつとして「分野別に希少がん・難治がんの対応を行う体制」とあることから、各がん診療連携拠点病院等における現状（対応・受入れ状況）の共有を行った。
- ・今回、議題とするに至った経緯と今後の進め方について、地域連携部会の部会長である、京都府立医科大学附属病院 がん征圧センター長 高山医師が説明し合意された。

### ～経緯と今後の進め方～

- ・大阪国際がんセンターを中心とした、希少がんに関する近畿圏でのネットワーク構築に向けた動きを受けて、患者さん等への情報提供（相談支援部門）及び診療可能な他医療機関との診療連携（がん治療部門）がより円滑に進むよう、京都府内の各病院の対応・受入れ状況を“一定把握”した上で、近畿のネットワークの中心となる大阪国際がんセンターと適宜連携していきたい。
- ・については、京都府内の各病院の診断実績や治療実績（対応できる医師の在籍状況等を含む）の情報をとりまとめ、京都府内の各病院の相談支援部門及びがん治療部門で活用いただけるような形で整理し、共有していきたい。
- ・こうした、京都府内における“一定の状況把握”について、地域連携部会にて担当させていただくこととした。

## (3) がん医療に関する医療機関としてのBCP策定状況

- ・令和4年8月1日に改正された「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」に、がん医療戦略推進会議において「感染症のまん延や災害等の状況においても必要ながん医療を提供する体制を確保するため、当該都道府県や各がん医療圏におけるBCPについて議論を行うこと」に加え、各がん診療連携拠点病院等の“がん診療の提供体制”についても「医療機関としてのBCPを策定することが望ましい」と示されているため、前回会議（第14回京都府がん医療戦略推進会議）に引き続き、各がん診療連携拠点病院等における状況共有を行った。
- ・前回会議では、各病院において、医療機関としてのBCPの中に、“がん診療の提供体制”についても位置づけることについて少しずつ検討が進んでいる状況についての共有を行い、引き続き、各病院それぞれで深めた上で、各病院間及び各がん医療圏における連携についても具体的に検討していくこととされた。
- ・前回会議での共有を受けた今回会議では、“がん医療に関する医療機関としてのBCP”について、3つの医療機関が、医療機関としてのBCPに関する資料を共有の上で現状を共有。

### ～具体的な共有～

- ・病院全体のBCP計画においては、「がん」も数ある疾患の中の1つとして対応することとしている。実際には、可能な範囲で柔軟に、担当診療科が対応することになるだろう。（京都大学医学部附属病院）
- ・災害発生から1か月程度を想定した医療機関のBCPの中で、がん医療について、災害発生後2時間以内に「麻薬管理」「手術・化学療法・放射線療法の管理」を実施する計画を組み込んでいる。患者さんの療養生活の支援（がん相談支援を含む）等の中長期的な継続支援体制を組み込むことについても、今後、検討していく予定。（京都市立病院）
- ・診療全体のBCPの中でも重要項目の1つと捉え、別途、「がん診療におけるBCP」を作成している。主要業務「手術・化学療法」の機能維持のため、各診療にまつわる多職種について就業不可となった人数により状況のレベルを分け、リリーフ体制をもって機能維持をするという基準を定めている。（京都岡本記念病院）
- ・上記の共有に加えて、各病院間における連携についても、各病院間ぞれぞれで深めた、より具体的な内容にて現状を共有。

以上